

提案要旨の記載例チェックシート(法第43条第2項第2号_通路の場合)

作成者は☑をしてください。

議第〇-〇号 (令和××年度) (例)

共通事項
 数字は半角

許可基準上の「建替え」に該当する場合は「新築(建替)」と表記、それ以外の新築は「新築」とする

計画地
 駅(役場)までの距離は直線でkm表示「約0.6km」など、少数第1位まで
 路線名は正式名称を記入(JR東海道本線、相鉄本線等)

周辺の状況
 更地で土地利用がある場合「空地(田、畑、駐車場等)」
 更地で土地利用(の予定)がない場合「空地」
 建築中の場合「一戸建ての住宅(建築中)」
 建築確認又は許可を受けたが未着工「一戸建ての住宅(建築予定地)」
 通路に接する方向は、原則通路の向こう側の土地利用を記入

接する通路
 道路名(「公道名」又は「私道」)と、幅員を記入
 幅員は、最小~最大幅員について、「約」をつけて小数第1位まで記入(小数第2位を切捨て)

通路が接続する道路
 方角、接続する道路までの距離、道路名(「公道名」「位置指定道路」等)及び幅員を記入
 道路までの距離は、「約」をつけて整数で記入
 接する道路の幅員は、「約」をつけて小数第1位まで記入(小数第2位を切捨て)
 複数の接続道路がある場合は全て記入

1	対象法令	法第43条第2項第2号			
2	申請者	住所	横浜市中区〇〇の〇〇		
	氏名	カナガタ タロウ 神奈川 太郎			
3	敷地の位置	〇〇市〇〇字〇〇100の1ほか3筆及び100の2ほか2筆の各一部			
4	用途地域等	第一種住居地域(市街化調整区域等の場合:指定なし(市街化調整区域))			
5	防火地域	準防火地域(法第22条区域の場合:指定なし(法第22条区域))			
6	主要用途	一戸建ての住宅			
7	工事種別	新築(建替)			
8	計画地	〇〇線〇〇駅の北約2.0km 周辺の状況: [東側] 空地(畑) [西側] 空地(畑) [南側] 一戸建ての住宅 [北側] 一戸建ての住宅 接する通路:市道〇〇号線及び私道(幅員約3.6~4.0m) 通路が接続する道路:南側約30mで市道〇〇号線(幅員約6.0m)に接続			
9	提案要旨	抵触内容:計画敷地の接する通路が法第42条の道路に該当しないため、法第43条第1項の接道要件を満足しない。 提案理由:計画内容について審査したところ ①計画建築物の用途が一戸建ての住宅であることから、前面の通路への交通負荷が少ない。 ②敷地の境界線は、通路の中心からの水平距離が2mの位置とする。 ③計画建築物の屋根、外壁及び軒裏で延焼のおそれのある部分については、防火上有効な措置が施される。 ④計画建築物の排水については、汚水は公共下水道に接続し、雨水は敷地内の浸透枳により、適切に処理される。 ⑤消防本部との協議により、消防活動上支障がないと判断されている。 以上の事項を勘案すると、交通上、安全上、防火上、衛生上支障がないものと認められるため、許可相当として提案するものである。			
		申請部分	申請以外の部分	合計	敷地面積との比
10	敷地面積	200.00 m ²	—	200.00 m ²	計画 法規制
11	建築面積	50.00 m ²	—	50.00 m ²	25.00% 50%
12	延べ面積	100.00 m ²	—	100.00 m ²	50.00% 100%
13	最高の高さ	8.00 m			
14	構造	木造			
15	階数	地上2階			
16	備考	申請年月日:令和XX年〇〇月〇〇日 都市計画法第29条許可見込み 私道所有者:1名			

氏名に半角カタカナでルビを振る

公報掲載の表記と合わせる
 Exe. 6丁目5番3 ⇒ 6-5の3
 町村の場合は「〇〇郡」から表記

防火地域に指定されていなくても、法第22条区域に指定されている場合は「指定なし(法第22条区域)」と表記

提案理由
 敷地の境界について
 ・計画で後退する場合
 ex「…位置とする」
 ・既に後退している場合
 ex「…位置である」

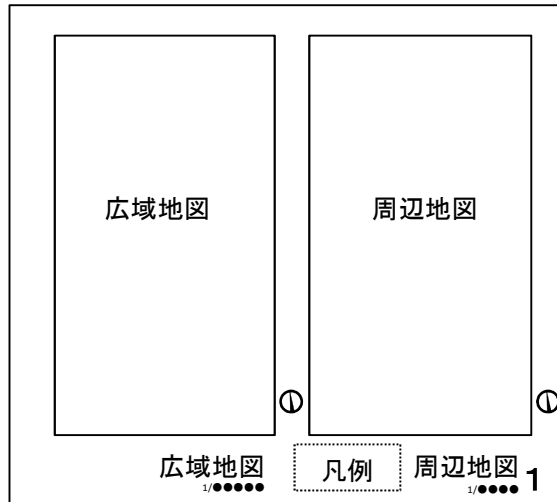
敷地面積~最高の高さ
 数値は少数第2位まで表記(小数第3位を切捨て)
 法規制(建蔽率、容積率)は都市計画で定められた規制値(2つ以上の用途地域にまたがる場合は按分した数値)
 建蔽率は角地緩和(幅員4m以上の通路の場合に限る。)等を適用した後の数値とし、その旨を備考欄に記入
 ex「法第53条第3項第2号適用(角地緩和)」

備考
 申請年月日を表記
 私道の場合は所有人数を表記
 都市計画法の開発許可、第53条許可等、建築基準関係規定に係る許認可が必要な場合、「許可見込み」と記入
 過去に43許可を受けた敷地の場合はその情報を記入

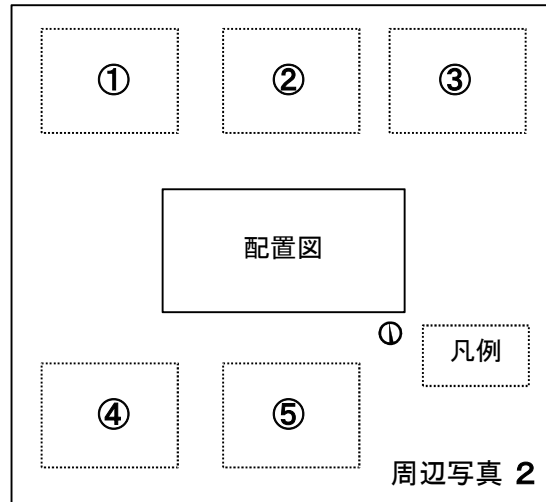
建築審査会用図面の記載例チェックシート(法第43条第2項第2号_通路の場合)

作成者は☑をしてください。

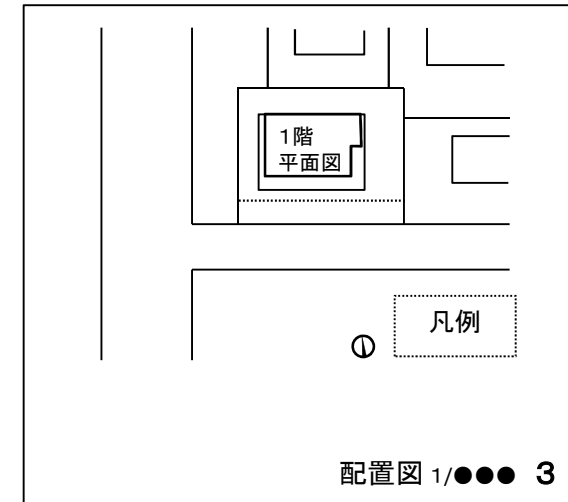
①案内図



②周辺写真(5枚程度)

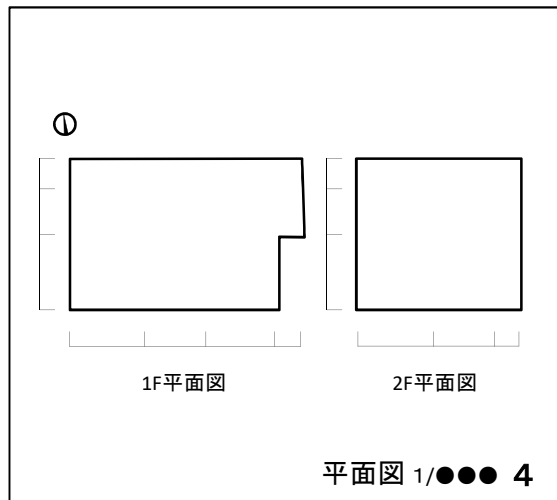


③配置図

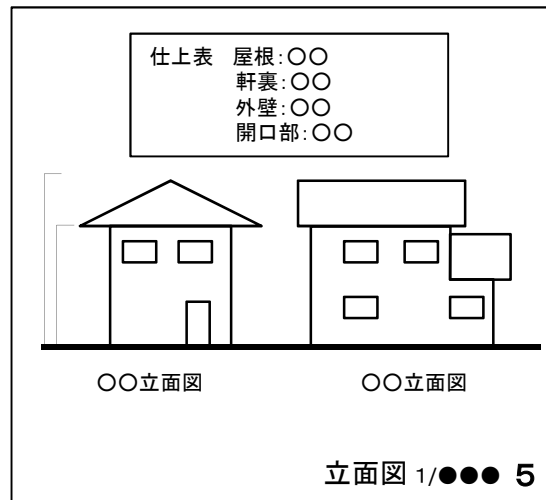


☐ 通路延長が長い場合は3-1, 3-2の2枚に分けて作成。申請先と相談してください。

④平面図



⑤立面図



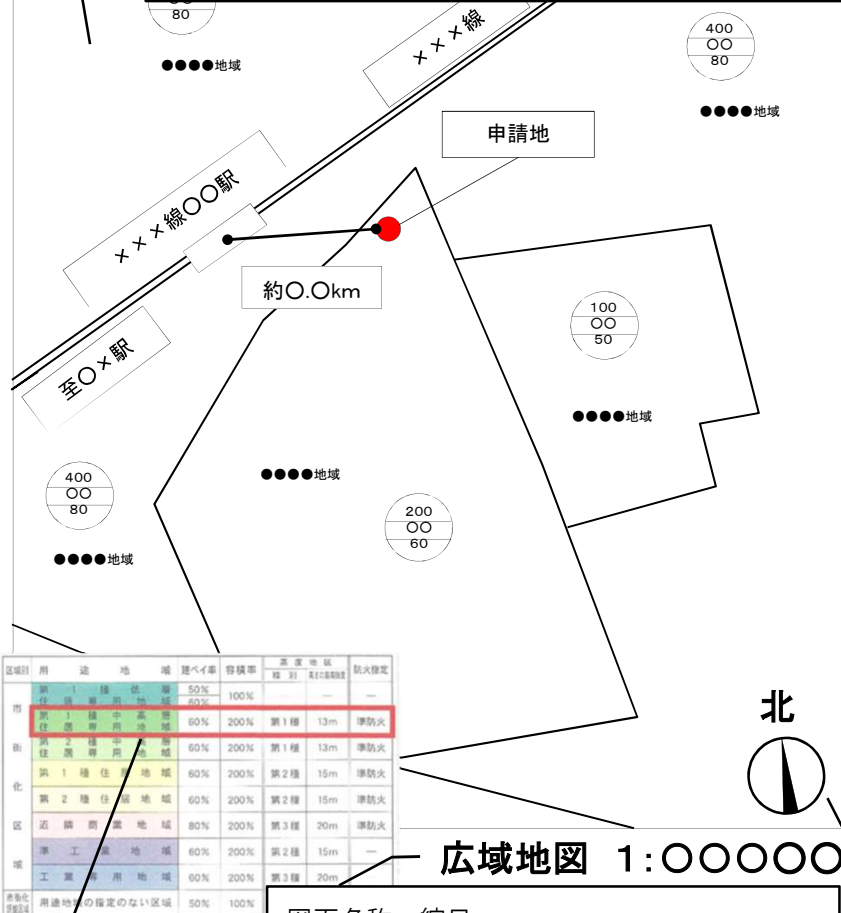
<全般事項>

- ☐ サイズ:A3(横使い、折らない)
- ☐ 設計事務所名等の記入はしない
- ☐ 図面の方角はできるだけ揃える
- ☐ PDF印刷時に縮小印刷しない
(正しい縮尺か印刷して確認する)

1 広域地図・周辺地図の書き方

広域地図

- 最寄駅(役場)と申請地までの距離は「約」をつけてkm表示
少数第1位まで(小数第2位を切捨て)
- 地図中に鉄道路線を含む場合は、線路は太線で明示し、駅を明示し、両端に至る駅(終点駅や主要駅)を記入
- 都市計画図(カラー)を使用し、
- 用途地域の種別については図中に名称を入れるか、凡例※を記入



広域地図 1:〇〇〇〇〇

図面名称・縮尺

- 1/10,000~1/7,500を目安とし、最寄り駅(役場)までの距離等を考慮して見やすい縮尺とする

※用途地域を凡例で示す場合

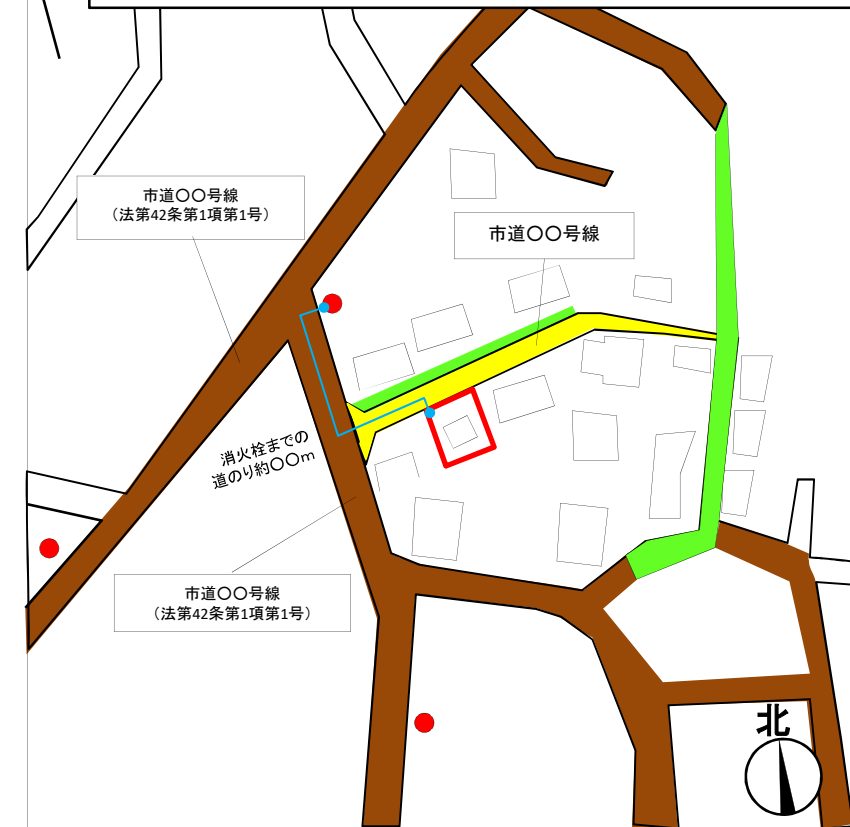
- 該当部分を赤枠で囲む

方位

- 真北とはかかない

周辺地図

- 接する通路の着色は、許可基準により敷地が接する通路として認められる有効な範囲のみ表記
- 道路については、通路が接続する道路、その他主要な周辺道路について着色し、主要な道路の名称、種別を記入(申請先と相談してください)
- 直近の消火栓までのルートと道のりを記入
- 申請地が中央になるように作成
- 市道番号等の注釈は、接する通路沿いの建築物に重ならないようにする



周辺地図 1:〇〇〇〇

〈凡例〉

- 基準法上の道路
- 基準法外の道(公道)
- 基準法外の道(私道)
- 申請地
- 消火栓

図面名称・縮尺

- 1/1,000~1/2,000を目安とし、周辺道路、河川等、消火栓の位置等を考慮して見やすい縮尺とする

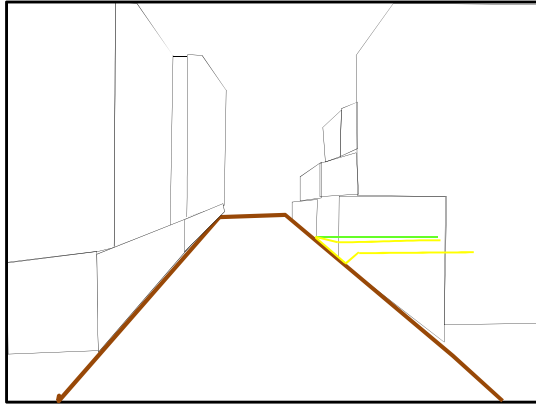
凡例を記入

- 基準法外の道は“道路”ではなく“道”と記入

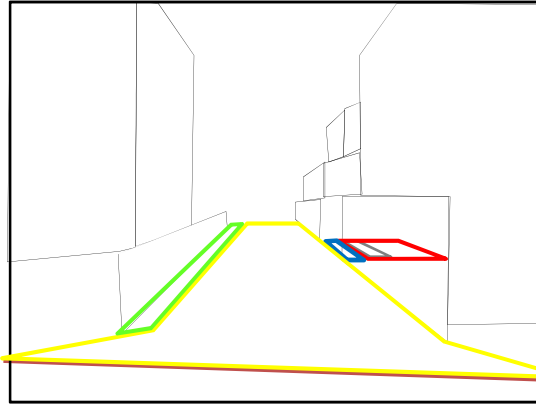
図面番号

1

2 周辺写真の書き方



①



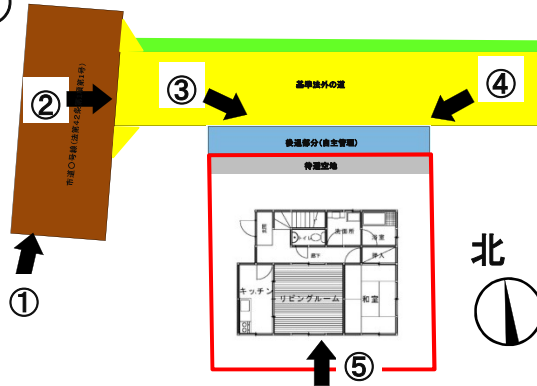
②



③

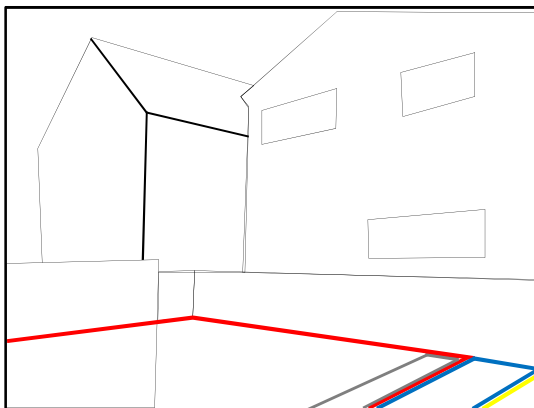
写真

- 写真の順番は原則、左から右→上段から下段
- 写真は、abcdeの順に5~7枚を目安とする
 - a 通路が接する基準法上の道路の状況
 - b 基準法上の道路と通路の接続状況
 - c 通路の状況(1~2枚程度)
 - d 通路と敷地の接続状況
 - e 敷地の状況
- 通り抜けの場合、a,bは両端部について必要
- 道路、道(公道・私道)を色枠で明示
- 敷地の位置、後退部分、転回空地、待避空地等を明示
- 色枠のみを基本とする。見づらい場合は半透明で薄く着色
- 既存建物で隠れている部分も明示する

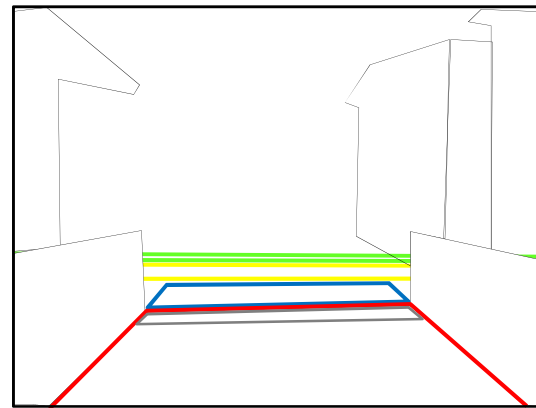


配置図

- 方位を記入
- 凡例を記入
- 道路、道(公道・私道)、敷地の位置、後退部分、転回空地、待避空地等を記入
- 写真の撮影位置を記入
- 3配置図の内容と齟齬が出ないように注意(3の縮小版を簡略化して使用してください)



④



⑤

〈凡例〉

- 基準法上の道路
- 基準法外の道(公道)
- 基準法外の道(私道)
- 後退部分(自主管理)
- 待避空地
- 申請地

図面番号

周辺写真

2

3 配置図の書き方

道路

- 主要な道路について路線名、種別及び幅員を記入
- 基準法上の道路から敷地までの距離を「約」をつけて整数で記入

通路の着色

- 着色するのは、
 - a 許可基準により「接する通路」として認められる範囲
 - b 同意を取得した私道の範囲

通路・後退部分・待避空地

- 路線名、幅員、レベル、仕上げを記入
- 幅員は、敷地が通路に接する両端の他、最も狭いところ等主要な場所の幅員を記入
- 通路中心線、後退距離を記入
- 待避空地の幅員を記入
- 後退部分・待避空地は見切材を記入

周辺の土地利用

- 隣地建築物のアウトラインを実線で記入
- 隣地の土地利用の状況を記入

敷地境界線

- 全て「敷地境界線」とする

凡例

- 基準法外の道は「道路」ではなく「道」と記入する
- 図に無い凡例は記入しない
- 後退部分は自主管理の場合「青」公共へ移管する場合は「ピンク」とする
- 雨水浸透柵の場合は「雨水柵（浸透）」とする

一戸建ての住宅

〈凡例〉

- 茶 基準法上の道路
- 黄 基準法外の道（公道）
- 緑 基準法外の道（私道）
- 青 後退部分（自主管理）
- 灰 待避空地
- 赤 申請地
- 汚水柵
- ⊗ 雨水柵（浸透）

図面名称・縮尺、
 図面番号

図面

- 情報量が多くなならないよう、不要な表記は削除
- 主要な出入口には▲
- 建物は1階平面図とする
- 通り芯、延焼ラインは削除
- 建物寸法は外形寸法のみ
- 駐車場位置を記入
- バルコニー等、1階より張り出している部分があれば点線で表記

敷地内有効寸法

- 建築物と敷地境界線の距離は、外壁（室外機等を含む）と境界フェンス等の間の有効寸法のうち最も狭い部分を記入（室外機等も明示）

排水処理

- 雨水柵、汚水柵を記入し、処理方法（接続先）を記入
- 浄化槽の場合、処理人槽を記入

敷地・敷地周囲

- 敷地周囲の囲障等の仕様を記入（CB2段積等）
- 主要なレベルを記入

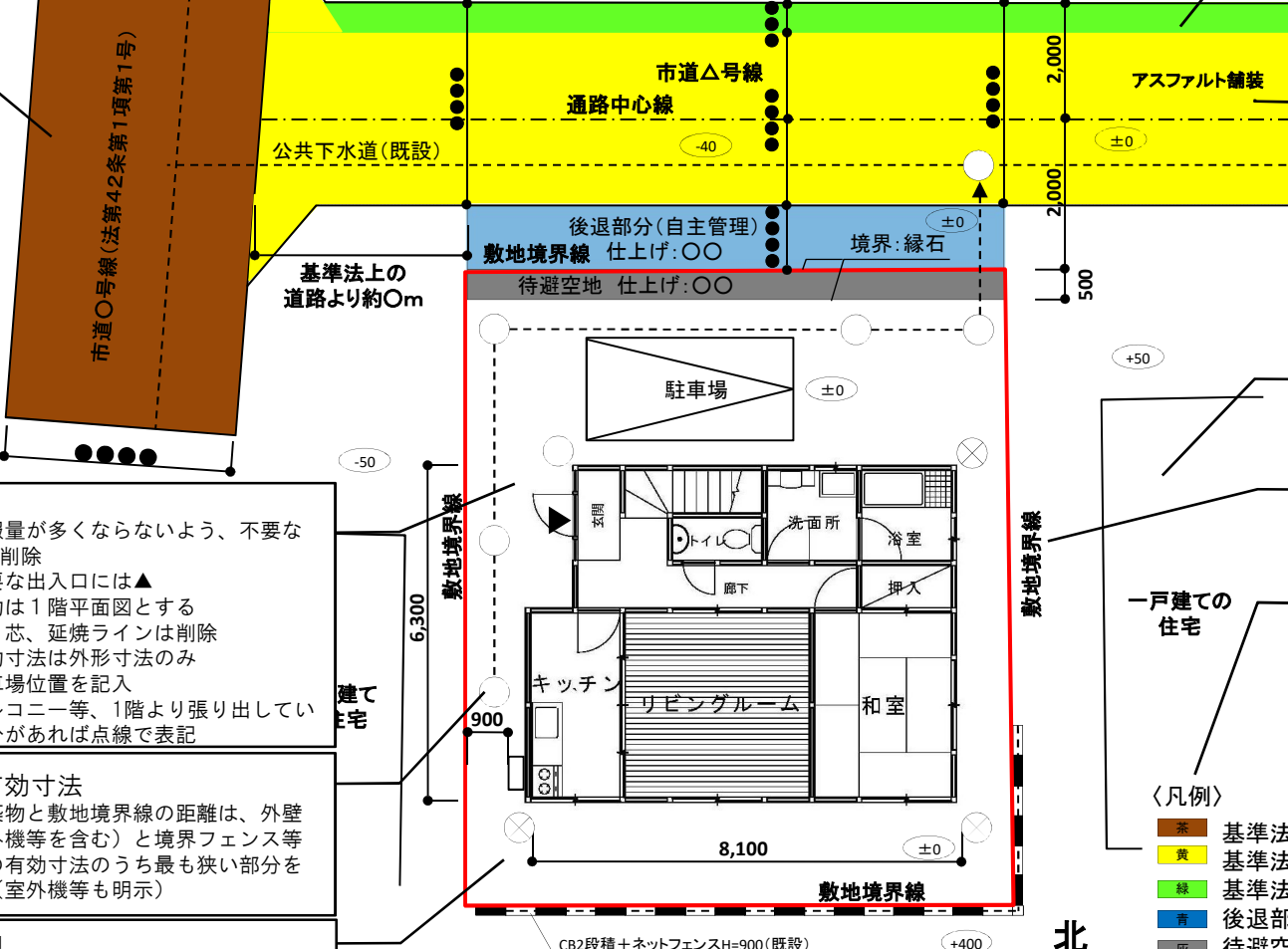
方位

- 真北とは書かない

北

配置図 1:100

3



3 配置図(転回空地がある場合)の書き方

- 道路**
- 主要な道路について路線名、種別及び幅員を記入
 - 基準法上の道路から敷地までの距離を「約」をつけて整数で記入

- 通路の着色**
- 着色するのは、
 - a 許可基準により「接する通路」として認められる範囲
 - b 同意を取得した私道の範囲

- 通路・後退部分**
- 路線名、幅員、レベル、仕上げを記入
 - 敷地が通路に接する両端の他、最も狭いところ等主要な場所での幅員を記入
 - 通路中心線、後退距離を記入
 - 後退部分の見切材を記入

- 転回空地**
- 転回空地の寸法、レベル、仕上げ、見切材を記入

- 周辺の土地利用**
- 隣地建築物のアウトラインを実線で記入
 - 隣地の土地利用の状況を記入

- 敷地境界線**
- 全て「敷地境界線」とする

- 凡例**
- 基準法外の道は「道路」ではなく「道」と記入する
 - 図に無い凡例は記入しない
 - 後退部分は自主管理の場合「青」公共へ移管する場合は「ピンク」とする
 - 雨水浸透柵の場合は「雨水柵(浸透)」とする

<凡例>

- 茶 基準法上の道路
- 黄 基準法外の道(公道)
- 緑 基準法外の道(私道)
- 青 後退部分(自主管理)
- 灰 転回空地
- 赤 申請地
- 汚水柵
- ⊗ 雨水柵

- 図面名称・縮尺、図面番号

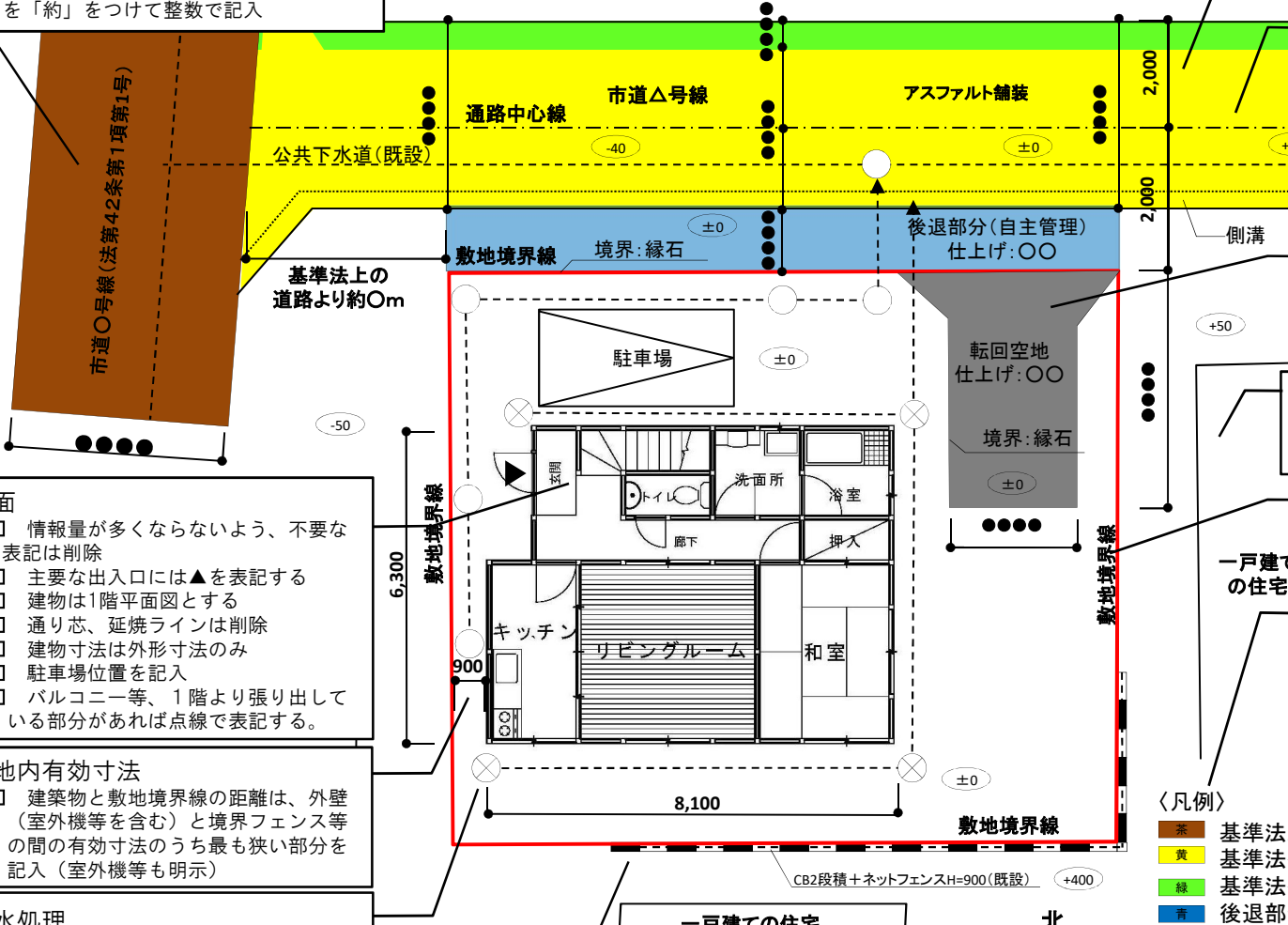
- 図面**
- 情報量が多くなならないよう、不要な表記は削除
 - 主要な出入口には▲を表記する
 - 建物は1階平面図とする
 - 通り芯、延焼ラインは削除
 - 建物寸法は外形寸法のみ
 - 駐車場位置を記入
 - バルコニー等、1階より張り出している部分があれば点線で表記する。

- 敷地内有効寸法**
- 建築物と敷地境界線の距離は、外壁(室外機等を含む)と境界フェンス等の間の有効寸法のうち最も狭い部分を記入(室外機等も明示)

- 排水処理**
- 雨水柵、汚水柵を記入し、処理方法(接続先)を記入
 - 浄化槽の場合、処理人槽を記入

- 敷地・敷地周囲**
- 敷地周囲の囲障等の仕様を記入(CB2段積等)
 - 主要なレベルを記入

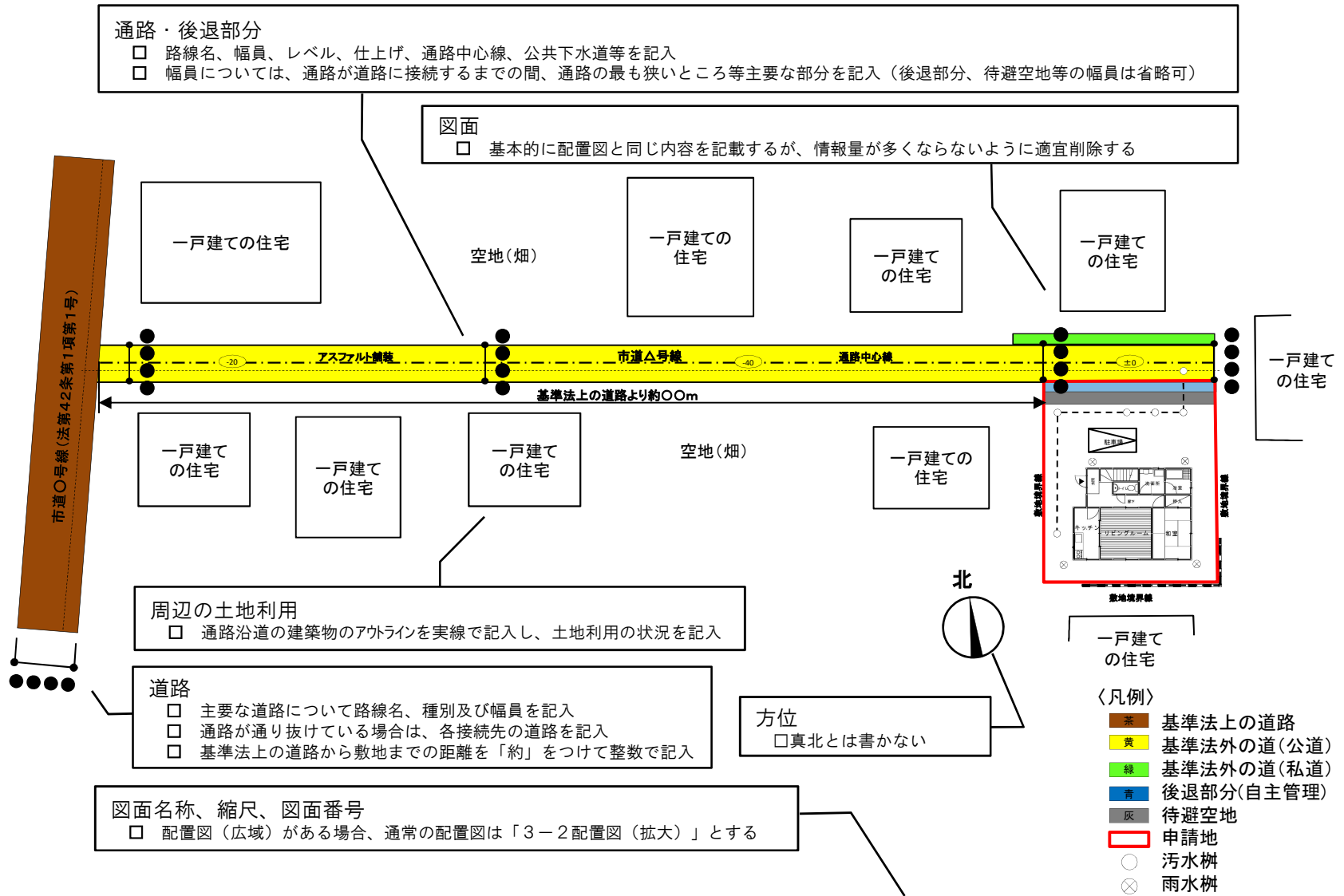
- 方位**
- 真北とは書かない



配置図 1:100 3

(通路延長が長い場合)3-1 配置図(広域)

通路延長が長い場合は、3-1に基準法上の道路に接続するまでの状況が分かる配置図を記入し、3-2に計画地付近を拡大した配置図を記入する。



配置図(広域) 1:300 **3-1**

4 平面図の書き方

表示するもの

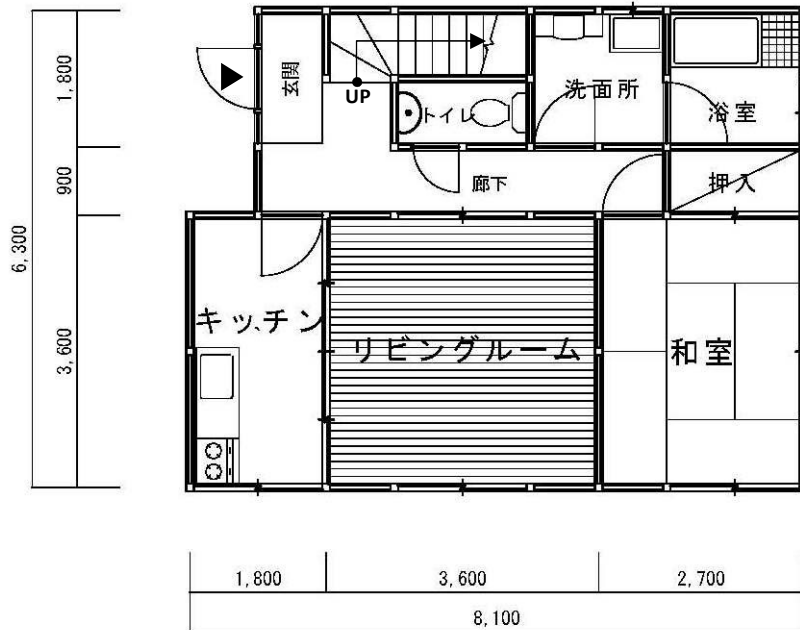
- 階段のUP、DNを記入
- 室名を表記
- 小屋裏、ロフト等は点線で表記
- 寸法の表示は2段程度
- 方位
- 主要な出入口に▲マーク

表示しないもの

- 通り芯
- 床レベル
- 延焼ライン
- 家具
- 室面積
- 室外機等
- 設備記号
- 耐力壁（筋交いマーク）
- 高基礎

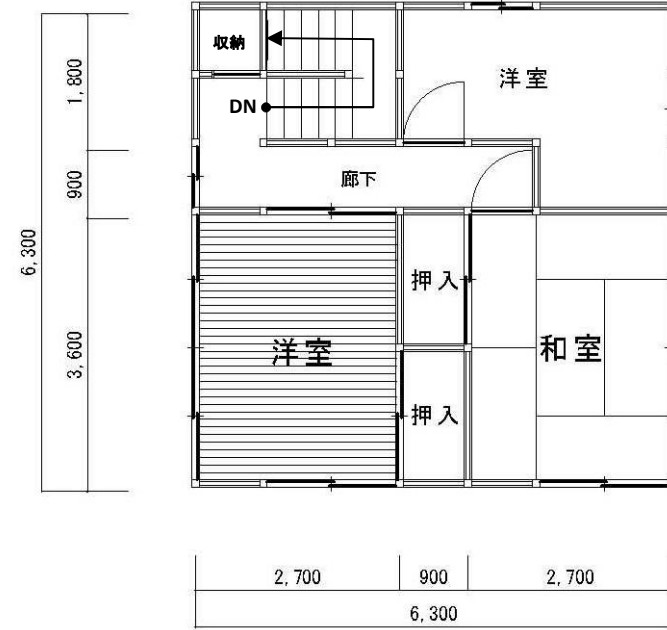


方位
□真北とは書かない



1F 平面図

□ 図面名称



2F 平面図

□ 図面名称・縮尺、
図面番号

平面図 1:100

5 立面図の書き方

表示するもの

- GL(平均地盤面)の位置
- 最高高さ、最高軒高
- 敷地境界線の位置
- 前面通路の範囲
- 敷地周囲(擁壁、がけ地等)の形状

表示しないもの

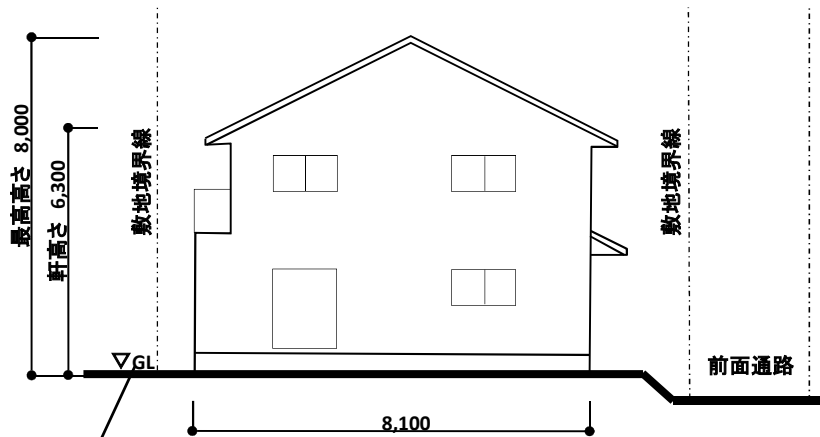
- 通り芯
- 道路斜線、隣地斜線
- 敷地高低差(擁壁、がけ地等)の寸法
- 階高
- 屋根勾配

仕上表

- 耐火建築物(準耐火建築物(イ準耐))の場合は、「仕上表」の横に【耐火建築物(準耐火建築物:イ準耐)】と記入
- 屋根、軒裏、外壁、開口部について仕上を記入
- 製品名は記入せず、主たる仕様と告示番号又は認定番号を記入(告示の場合)
屋外側 ラスモルタル厚15mm、屋内側 PB12.5mm 防火構造 平成12年建告第1359号
- ルーフバルコニーについても防火仕様を記入

仕上表 (耐火建築物の場合は続けて【耐火建築物】と記入)

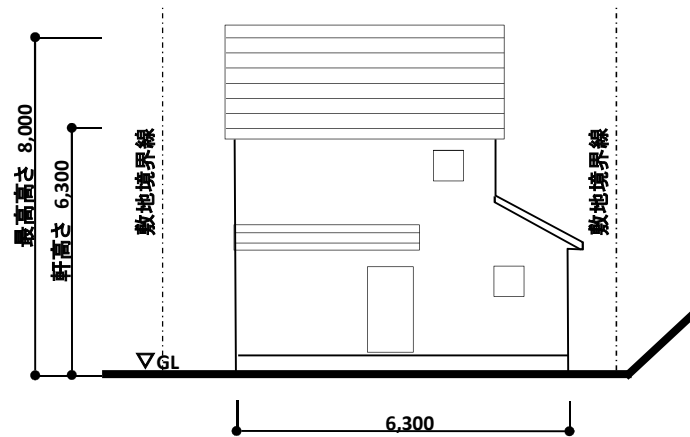
屋根	平型屋根スレート厚6.0mm 不燃材料 NM-XXXX
軒裏	防火軒天ボード 準耐火構造 QF045RS-XXXX
外壁	窯業系サイディング張 防火構造 PC30BE-XXXXX
開口部	アルミサッシ、ガラス(防火設備)
(ある場合) ルーフバルコニー	ガラス繊維入り合成樹脂塗 飛び火認定 DR-XXXX



- 平均地盤面のときは「平均GL」とする

東立面図

- 図面名称



北立面図

- 図面名称・縮尺、
図面番号

立面図 1:100